



読書会で紹介されて読んだ本。テロリストが原発の真上に爆弾を積んだへりを落下させるという脅迫に政府や関係者が取り組むサスペンス。

このところフィクションはあまり読んでなかったが、敦賀の原発が舞台とあって興味を持って読んだ。敦賀は世界でも類を見ない原発銀座。こんなことは起こり得ると前から思っていたので読んでみたいと思った。

流石に電気工学科卒業の東野圭吾の作品だと思った。防衛庁で働いた者と原発関連で働く者二人の影の部分が偶然繋がり、IT を駆逐して原発真上での爆弾を積んだへりの落下を企てることになる。この二人の知識が凄い。

でも、これはやはりフィクションだと思う。本当のテロリストにはこれだけの知識はいらないと思うし、時間的余裕も作らないと思う。テロリストは破壊することが目的だからふる里を福井に持つ人間として原発は怖い。と常々思っている。

でも、面白かった。またこの人の作品を読んでみたいと思った。